

第7回函館桜友の会観察会

場所: 北海道大学水産学部函館キャンパス

今年も松前公園での観察会に引き続き北大水産学部での桜花観察会に参加しました。

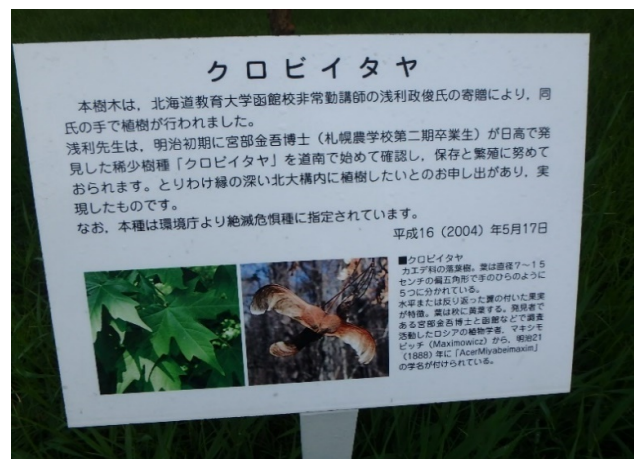


悪天候の中キャンパス内にあるスマウラフゲンゾウ(須磨浦普賢象)についての解説を行う浅利先生。他にキャンパス内に黄花の品種ではソノサトキザクラ(園里黄桜)、ウコン、ギョイコウ(御衣黄)がある。
スマウラフゲンゾウ: (1990年に神戸市の須磨浦公園でフゲンゾウ(普賢象)の枝変わりとして発見された。花の色は黄色で、ウコン(鬱金)よりも黄色みが強く、ウコンやギョイコウ(御衣黄)と同様咲き終わりに中心部から赤くなる。)

キャンパス内のサクラ植樹の由来である慈と絆を後世に伝え、サクラが末永く愛され、後世に伝えるために建立された石碑。



サトザクラの中でなじみの深いカンザンの特徴について解説する浅利先生。
カンザンの花びらの数約50枚



キャンパス内には、宮部金吾博士 縁の木
チシマザクラ、クロビイタヤなども植樹されている。

北大水産学部キャンパス内のサクラは浅利先生指導の元、柳川光男氏、鶴沼ワカさん(函館桜友の会会員)によって守り育てられています。